

ゆうひかがおか

1996. 3. No.65

陽は又昇る！

— 閉館にあたって —

清水 悠子

大阪府立夕陽丘図書館は、平成8年3月31日をもってその22年の歴史に幕をおろすことになりました。

すでにご承知のとおり、東大阪市荒本に新しい図書館が完成し、夕陽丘図書館の特許関係を除いたすべての蔵書・資料及び中之島図書館の蔵書の大部分をひきついで、5月10日から府立中央図書館として新しいスタートをきることになった訳です。

新図書館では、コンピューターシステムの導入、オーディオ・ビジュアル資料やニューメディア資料の提供、ホール・会議室といった文化活動の場の提供等々、夕陽丘図書館にはなかった新たな機能を整備して、高度情報化や生涯学習の機運の高まりなどの時代の流れに即応した、総合的な図書館サービスの提供を図ってまいります。

中之島図書館は、大阪の郷土資料や近世和漢資料を中心とした資料センター的機能を持つ図書館として再オープンいたしますし、夕陽丘図書館の建物と特許資料は、4月1日オープンの大阪府立特許情報センターに移管され、図書館からはなれ新しい枠組みでのサービスを目指してスタートいたします。

新図書館は、今までに比べて巨大な施設であり、加えて新しいシステムのもとでの出発には、正直なところ希望だけでなく、大きな不安も感じているというのが本音です。しかし、そこは職員一同のこれまで積み上げて来た実績と、情熱と誠意でのりこえて行く覚悟です。



私が館長に就任したのが昨年5月半ば、10月半ばには蔵書移転のための休館、そしてそのまま閉館へとすすすべも知らず立ちつくしている間に、時間だけが過ぎて行く、という全くふがない館長でした。これほどみごとに自分の存在感を失ったまま日々を過ごすのは、私にとって初めての経験です。

そんな私でさえ、夕陽丘図書館に残された日数をカウントダウンしながら惜別の想いにひたっております。ましてや長年——中には開設当初からずっと——この夕陽丘図書館を育て上げて来た職員の人達、そしてこの図書館を愛し、支えていただいた利用者の皆さんの想いは、私などには到底推し量ることはできないと思います。

「夕陽だから沈むのか！」ため息まじりに誰かが云いました。でも考えて見て下さい。沈んだ陽は翌日に又昇り、新しい輝きでこの世を照らしてくれます。沈むから又昇れるのです。

夕陽丘図書館の閉館は、決してエピローグではなく、府立図書館の新しい歴史のプロローグなのです。

「陽は又昇る！」22年の歴史をひきついで昇る新しい陽が、より大きく、より暖かく輝きますよう、どうかこれまで以上のご支援ご指導を賜りますよう心からお願いいたします。

ありがとうございました。（当館館長）